

病院の実力「脳腫瘍」  
医療機関別2020年治療実績  
(読売新聞調べ)

医療機関名	成人の手術				18歳未満の子どもの新規患者(人)
	神経膠腫(件)	髄膜腫(件)	神経鞘腫(件)	下垂体腺腫(件)	
虎の門	8	42	10	174	14
東京女子医大	109	41	6	45	6
東京医大	21	42	115	12	4
順天堂大	58	61	32	14	11
日本医大	16	33	8	45	3
東京医科歯科大	23	39	0	25	2
慶応大	22	43	9	11	9
東京大	34	29	4	15	2
国立がん研宄会中央	63	16	0	1	10
杏林大	53	11	1	14	1
総合東京	7	38	15	9	—
慈恵医大	16	26	10	16	23
昭和大	6	15	5	35	1
東邦大大橋	23	18	4	12	0
日赤医療セ	15	29	0	2	2
帝京大	7	10	6	22	2
日大板橋	17	13	3	8	8
武蔵野赤十字	13	13	3	8	0
東邦大大森	8	14	6	3	5
東京医大八王子医療セ	12	10	5	2	2
東海大八王子	8	8	5	2	0
都立墨東	3	13	1	0	0
都立駒込	10	3	2	1	0
北原国際	3	5	4	4	0
順天堂大練馬	5	5	2	3	1
三井記念	2	8	4	0	—
国・東京医療セ	3	8	0	2	0
公立昭和	5	6	1	0	3
東京臨海	5	2	1	2	0
日本大	1	8	0	1	0
青梅市立総合	4	4	0	2	0
厚生中央	1	5	1	1	0
聖路加国際	3	5	0	0	0
国立国際医療研究セ	5	2	0	0	1
昭和大江東豊洲	2	5	0	0	0
慈恵医大葛飾医療セ	2	3	1	0	2
板橋中央総合	2	4	0	0	0
牧田総合	0	5	0	0	0
順天堂大東江東藤原医療セ	1	2	0	0	0
練馬光が丘	0	3	0	0	0
豊島	1	0	0	0	0
東京共済	0	0	1	0	0
国立成育医療研究セ	—	—	—	—	36

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または対象外

全国の調査結果は16日の「安心の設計面」に掲載しました。

# 病院の実力

## 脳腫瘍

### 放射線や化学療法も

今回の病院の実力は、脳腫瘍を取り上げる。一覧表には、成人の手術件数と、18歳未満の子どもの新規患者数を掲載した。

手術は2020年の実績で、①神経膠腫、②髄膜腫、③神経鞘腫、④下垂体腺腫の順に並べた。この四つのタイプのうち、脳を包む膜にできる「髄膜腫」、聴神経などを取り巻く組織から発生する「神経鞘腫」、下垂体と正常な部位との境目がわからない「下垂体腺腫」は、良性の場合が多い。手術で腫瘍を取り除き、残った腫瘍があれば、放射線治療や化学療法を行うこともある。

一方、神経膠腫は悪性で、腫瘍と正常な部位との境目がわからない「下垂体腺腫」は、良性の場合が多い。手術で腫瘍を取り除き、残った腫瘍があれば、放射線治療や化学療法を行うこともある。

片側の手足のまひ、ろれつが回らない、頭痛が続いているなどの症状があれば、脳神経外科や脳神経内科で検査を受けるのが望ましい。子どもの脳腫瘍は、患者数が少なく、専門で診る医師は限られる。

また、治療から何年もたって合併症が出ることもある。発達の遅れや一次性徴が来ないなど。治療後も、定期的な検査で経過を確かめていくことが大切だ。相談窓口があるかどうかも含めて、長期的な対応ができる病院を選びたい。